



地球が与えてくれた贈り物を大切に
リサイクル社会の実現をめざしたい

月刊 会報

RECYCLE
Design

リサイクルデザイン

発行日: 1995年4月15日

編集・発行: 横浜市資源リサイクル事業協同組合
〒220 横浜市西区平沼1丁目33番1号
東洋建物横浜ビル5階

TEL.045・316・4050 FAX.045・316・6050



今も残る地域の触れ合い

戸塚区・吉田元町町内会

小雨降る土曜日の朝、町内にスピーカーの音が響きます。「今日は吉田元町町内会の資源回収日です。新聞、雑誌、段ボール、ボロ布、びん、缶を種類別に分けて出してください。」

アナウンスをしているのは保健環境部のお年寄りです。この町内会は保健環境部、婦人部を中心に、50人もが集まり資源回収を行っています。

放送を終えると、軽トラック、2t車、リヤカーなどを繰り出し、家庭の前や置き場に出ている資源物を集め始めます。

持ち寄り場所は、町内にある八幡宮前の広場。ここに当組合員の陶末広金属がトラック5台を着けて待機しています。

軽トラックに古紙が山と積まれてきました。ハンドルの切るたびに今にもこぼれそうです。それを押さえるため荷台に乗っているお

年寄りも、これまた危なげです。

荷台の隅には調味料やウイスキーなどの空きびんも乗っています。ここではビールや一升びんなど、そのまま再利用するリターナブルびんの他に、砕いてガラスの原料(カレット)にするびんも集めています。

びんを袋から出すのは、婦人の仕事。慣れた手つきで色分けしやすいように台に並べていきます。「見つ

けた。透明で肉厚のあるびんが出てきました。生活クラブのリターナブルびんです。たまに混ざっているこのびんも、ちゃんと生活クラブに戻されます。

台に並べられたびんを茶臼、青緑、黒、と色別にドラム缶に入れながら、全体を見回しているのは、末広金属社長の早坂光成氏。

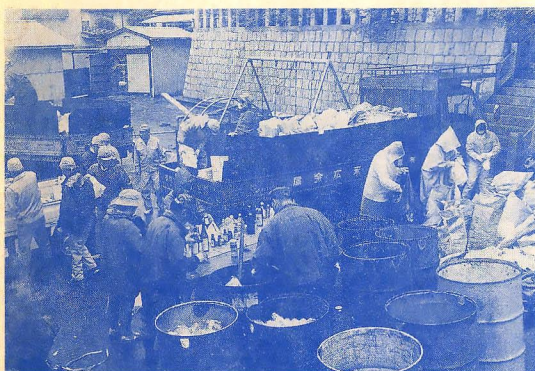
「おばちゃん、新聞はそつちじゃなくて、こつちの車でしょつ」などと言いながら、女性に囲まれ楽しそうに仕事を進めています。

隣ではビールや缶詰の缶を大きな茶袋に詰めています。スプレー缶もハンマーで、ぎ抜き側で穴を空け、中のガスを出してから詰めていました。

神社の横にある『青少年の家』では婦人部が慰労会の支度をしていました。きょうの献立は串カツ、コロッケ、春菊の天ぷら、ちんげん菜のお浸しです。

昼までかかった回収も終わり、皆が料理の並ぶおぜんに集まって来ました。

「これが楽しみでね」と、ビール片手に今日の仕事を振り返り、会話も弾んでい



ました。
料理を作り終えた奥さんたちも食卓にきました。
「男の人は働いた後の一杯が楽しみなようですが、お母さんたちは大変ですね」と聞くと、「私たちは月一回の運動の日だと思ってるの。だって、これって全身を使うでしょう」と、こちらも満足そうでした。
保健環境部代表の渋谷さんによると、「この回収は15年以上前から行っている。初めは1tも出なかったのに、今では多い日には15tも出ます。たくさん集まるのはうれしいですが、我々もだいたい年を取って来たので、そろそろ若い人にも参加してほしい。」
末広金属の早坂氏によると、「この町内のように住民と業者が一体となり、回収を行っている所は今では珍しい。私も損得以前に回収の歴史として、また将来へのモデル地区としてここを残していきたい」とのことでした。

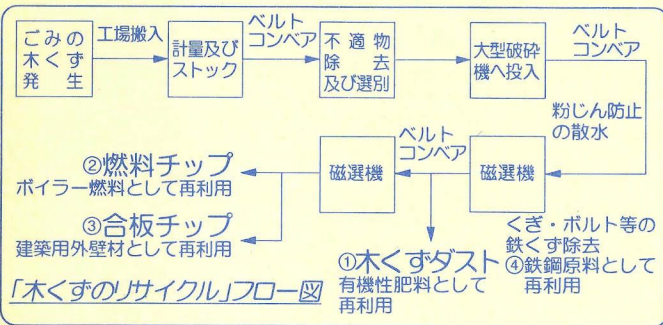
《木くずのリサイクル》

今回のテーマは、木くずのリサイクル。一般家庭から排出されるびん・古着・あき缶・古紙などは違い、事業活動によって排出されるため、あまりなじみのない「ゴミ」です。でも家を壊したり、事業活動に伴って排出される不用の木くずはいっぱいあります。木は燃えます。だから燃やしてしまつては、ただの「ゴミ処理」で終わってしまいます。

しかし、横浜市内でこの木くずをリサイクルしている工場には、1日約100トンの廃棄木材が持ち込まれ、破碎することによってそのほとんどが製品として出荷されています。

製品といつても、ただ碎いて粒子を機械によってそろえていき、その工程でくぎ・ボルト等金属くずを取り除き、金属くずは鉄鋼原料へ、そしてリサイクルされる用途ごとに製品を作っています。

フロー図を示しますのでリサイクル工程として参考に見て下さい。



▲①磁選機にて除去した鉄類



▲②合板チップ



▲③外壁材合板チップ再生品

のではなく、紙くずと廃プラスチックと混合させて固形化燃料にしたりと、付加価値をつけて再生していくことにより、リサイクルが構

築されていきます。
古紙・びん
・空缶・古着
等、身近で
きるリサイク
ルとあわせて、いわゆる産
業廃棄物のリサイクルがも
つと拡大していくことが本
当の循環型社会を構築して
いけるのではないでしょ
うか？

おすすめします

ここ23年の間「エコロ
ジー」「リサイクル」とい
った言葉がすっかり生活の
中に溶け込んできました。
でも実際に行動をしている
人はどれくらいいるでしょ
う。先日今朝、会社に行く
ときゴミ置き場にきれいに
束ねられた新聞が捨てられ
ていました。認識不足と言
つてしまえばそれまでだし
、「そんな小さなことまで...」
と言われるかもしれません
が、全てはここから始まる
と思いませんか？
そこでおすすめするのが、
大泉書店から出版されてい
る『私たちができるゴミを
減らす暮らしの工夫101』と
いう本で、リサイクル運動



市民の会代表・石毛健嗣氏の
監修によるものです。

「環境保護はゴミを減ら
すことから」という観点か
ら私たちが日常生活の中で
簡単にできる様々な知恵が
とてもわかりやすくかつ興
味深く書かれています。

「リサイクル」をこれか
ら始めようという人も、す
でに実行している人も是非
一読して自ら楽しめる「リ
サイクル」を再確認して下
さい。

発行 大泉書店
定価 980円

(A)

アルミ缶の生産だけでなく リサイクルにも取り組み

アルミ缶リサイクル協会(その1)

「アルミ缶リサイクル協会」はアルミ缶を製造するメーカーが中心となり、73年2月に「オール・アルミニウム缶回収協会」として設立されました。そして88年5月に「アルミ缶リサイクル協会」と改称され、現在28社の会員協力により運営されています。

それでは、アルミ缶リサイクル協会の活動内容をいくつか紹介しましょう。

1・表彰制度

アルミ缶のリサイクルに貢献した団体(ボランティア・小学校・回収拠点・業者)及び個人を表彰しています。

2・アルミ缶回収活動に協力

「アルミ缶を集めたけれど、どこへ持っていくたらいいかわからない。」という問い合わせに、北海道から沖縄まで回収拠点約1,700か所を紹介しています。

3・モデル事業

全国各地にモデル地区を数か所選定して、アルミ缶回収実験を助成して、成果を広めます。(横浜でもスーパーの店頭でアルミ缶回収機が置いてありますよね。あれはアルミ缶リサイクル協会で行っているんですよ)

4・調査研究活動

年1回、アルミ缶の回収再生率を調査し、発表しています。また海外派遣なども行っています。

5・広報・宣伝活動

アルミ缶リサイクルニュースを年4回発行し、回収活



エコサイクル 12か月

第4回

ベランダでコンポスト

大震災の残した大量のがれきやゴミ処理に、横浜市からも収集車が応援に行つ

動をしている団体・個人に読まれています。

リサイクルフェアなどがあつた時、パネルや回収機を展示してリサイクル活動を勧めています。

と主だった活動をあげてみましたご理解していただけたでしょうか?

またアルミ缶リサイクル協会では、ロゴマークを5年前から使っています。かわいらしいマークですね。

今回はその1としてアルミ缶リサイクル協会について紹介しましたが、次回はリサイクルの特色について触れてみたいと思います。

ています。ゴミを考える連絡会の若いメンバーはボランティアで20日間滞在、見てきたことを報告してくれました。仮設トイレにいたとが粉じんがひどく眼鏡がすぐ曇るほどで、彼はのどが弱いためマスクをしていたそうです。アスベストの浮遊量が危険値をはるかに超していると、報道がありました。子どもたちは平気で遊んでいて、影響が気になると言っていました。

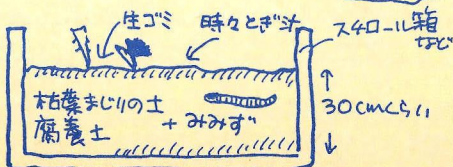


▼横浜ゴミを考える連絡会で作ったふるしきの柄。循環を表わす。

天変地異がいつ起きるかわからず、そして起きても日々暮らしていかなければなりません。年々、異常気象が当たり前のようになっていても、季節は変わらず巡ってきます。時は春、あふれる緑に心を浸し、これ以上

の環境悪化をくい止める、私にできることを探してみよう。

ベランダでコンポスト



保育所でもコンポスト。(エコサイクルの国スウェーデンでは2才児が食べ残しを分けていました)近くで作られた物を食べる。自分で作って食べる。旬の物を食べる。不用になつた物はもうい手を見付ける。必要になつた物は譲り手を見付ける。使い捨て商品は買わない。化学合成されたものより自然に近いもの。いろいろ並べましたがヒントになるかしら?

すでに実践していることばかりかもしれせんね。

ササキミチコ

イベント情報

「'95 廃棄物処理展」が、5月8日(月)から11日(木)の4日間、東京・晴海の国際見本市会場で開催されます。

テーマは「環境保全と再資源化」です。

▶▶ 入場料は千円。◀◀

オフィス古紙回収事業

2月回収実績
(参加企業 14 社)
15,570kg
でした。

アルミ缶店頭回収実績

(横浜市内スーパー106店舗)

2月回収実績
35,020kg
でした。

リサイクルに伴う標準価格表

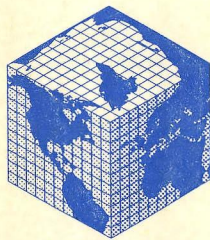
(平成7年3月現在)
(取引条件により多少の変化はあります。)

品 名	買 入 金 額	業者の売値(参考)
新 聞	1kg 0～1 円	1kg 6～7 円
雑 誌	1kg -1～0 円	1kg 1 円
段ボール	1kg -1～0 円	1kg 6 円
衣類くず	1kg 0～1 円	1kg 5 円
アルミ缶	1kg 10～20 円	*アルミ缶のみを選別した場合

★この価格は、500kg以上集まる団体に適用されます。(個別回収は適用外) ◆業者の売値は、リサイクル組合古紙委員会からの市況情報です。

集団回収以外の段ボールの標準回収手数料

★引越しなどは、量にかかわらず 1 回 3000 円
★商店・会社等は定期回収 500kg 以下、1 回 1000 円～2000 円。500kg 以上、3000 円以上。但し、段ボールはただでストック場所は車両の付けられる場所にストックすることを前提とします。(この価格は、組合員が実際頂いている回収手数料を、調査したものです。)



戦後50年を経て、私たちを取り巻く生活は飛躍的に向上してきた。「鉄は国家なり」と重工業が発展し、衣食住の改善、豊かな生活を確実に引き寄せ、また、努力をしてきた。そしてその充足感のサイクルが短くなってきた時に廃棄物問題、そして当たり前のリサイクルが法律によって規制されなければならないという現実が、私達を脅かしている。しかも地球規模で。

新聞の社説等で取り上げられている国際標準化機構(ISO)もそのひとつである。この組織は世界各国の民間代表者で構成され、工場の環境保全対策を向上させるため、環

「リサイクルの外堀から」 製品の一生

環境管理・監査規格の設定作業を進めている。ルールとしては企業が自ら環境企画を立て、それを実行すること、本当に実現したかどうかを外部監査し、その内容を外部に公表することを要求している。どこまで、規制能力があるルールかは未知だが、一つの製品を作るにあたり企業がどこまで環境保全に対して努力しているかを判定させようとしている。従来の製品は消費者の利便性・機能性に応答しようとしていたが、今後は物作りから廃棄まで「製品の一生」にわたって環境に対する負荷を最小限にするようルールづくりが始まっている。

生産者・消費者・リサイクル業界、それぞれに吉と出るか凶と出るか…。

身近なリサイクル、そして地球規模のリサイクル、確実に次世代のリサイクルが動き出している。



「リサイクルデザイン」は、
西区役所・緑区役所・南区役所・港南区役所・栄区役所・旭区役所・瀬谷区役所・鶴見区役所・保土ヶ谷区役所・都筑区役所・立場地区センター・瀬谷地区センター・希望が丘地区センター・西谷地区センター・豊田地区センター・末吉地区センター・寺尾地区センター・泉図書館・泉区青少年図書館・栄図書館に置かせていただいています。
機会があつたら読んでみてください。

お知らせ